国立国語研究所学術情報リポジトリ

小田原市方言のアクセントの古相について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002729

小田原市方言アクセントの古相について

坂本　薫
（國學院大學大学院文学研究科文学専攻日本語学コース博士課程後期１年）

１．はじめに

小田原市は神奈川県の西部、相模湾沿岸に位置する人口 19 万の市である。神奈川県の方言は西関東方言に属し、日野資純（1965）の分類によると神奈川県南部方言にあたる。東京に隣接するという地理的環境から、共通語（東京方言）に近いと思われていたせいか、小田原市を含む神奈川県南部方言の先行研究は少なく、特にアクセントに関する分野はこれまでの研究は十分ではない。

本稿では、小田原市方言のアクセント体系と、古相の保持という実態を述べる。

２．本稿で用いる表記について

音声の表記には基本的にカタカナを用いる。アクセントについては高い拍をゴシック体、低い拍を明朝体で表記した。音韻論的解釈は/　/で囲み、拍を〇で、アクセントの「下がり目」を ］で示した。母音が無声化している拍についてはひらがなで示した。

３．調査について

本稿では平成 24 年 5 月～平成 24 年 12 月と平成 25 年 6 月～7 月に、いずれも神奈川県小田原市で行った調査の結果について述べる。

３．１　調査方法

調査は、調査票の読み上げの方式で行った。名詞は、項目語単独の読み上げののち、それぞれの語に助詞（が、に、を等）をつけた短文を作ってもらった。なお、後続する助詞･助動詞については一部の名詞を抜粋して確認のための調査を行った。動詞と形容詞については、言い切りの終止形のほかに、活用例を示しそれに倣い活用をしてもらい、必要があれば短文を作ってもらった。

３．２　話者

老年層話者として以下の話者の発音を調査した。本稿では昭和 3 年生まれの女性の話者の発音について主に述べる。また、比較対象として、昭和 63 年生まれの男性の発音の調査結果も用いる。

1922（大正 11）年、小田原市本町生まれ。女性。自営業。外住歴 30～32 歳鹿児島県。

1928（昭和 3）年、小田原市水之尾生まれ。女性。無職。外住歴なし。

1939（昭和 14）年、小田原市本町生まれ。女性。自営業。外住歴なし。

1988（昭和 63）年、小田原市小八幡生まれ。男性。学生。外住歴なし

３．３　調査語例

語例は主に平山輝男(1957)所収の「類別語彙表」に掲載の語を中心に、秋永一枝

（1981）、馬瀬良雄・佐藤亮一（1989）、佐藤亮一（1990）アクセントの変化やかつて存在した発音に関して言及のある語を加えた。また、本稿では尾高型のアクセントで発音される語を特に扱うため、平山輝男（1940）所収の「東京アクセント語例」で尾高下型に分類されている語例も加えた。調査後数は約 1800。

４．小田原市方言のアクセント体系

共通語のアクセントと同様、「下がり目」の有無、そしてその位置が弁別的特徴であり、その対立は n 拍の語に対して n+1 種ある（表１）。以下、動詞・名詞・形容詞のアクセントについてそれぞれ述べる。

表１：小田原市方言のアクセント体系

拍	音韻論的解釈	語例
1	/○/	蚊、名
	/○]/	世、矢、絵
2	/○○/	飴、人、行く、着る
	/○○]/	石、足、昼、
	/○]○/	雲、跡、秋、鯉、会う、来る、良い
3	/○○○/	田舎、桜、畑、油、兎、鯨、上がる、運ぶ、遠い
	/○○○]/	夕べ、力、男、とさか
	/○○]○/	五つ、乙女、余る、生きる、熱い
	/○]○○/	緑、二十歳、嵐、命、狸、蚕、青葉、帰る
4	/○○○○/	合い鍵、従う、悲しい
	/○○○○]/	朔日
	/○○○]○/	玉葱、悲しむ、集める、うつむく、尊い、詳しい
	/○○]○○/	朝顔
	/○]○○○/	音楽
5	/○○○○○/	相手方、酔っ払う
	/○○○○○]/	消防署
	/○○○○]○/	寝ずの番、思い立つ
	/○○○]○○/	縁の下
	/○○]○○○/	相撲取り
	/○]○○○○/	カーニバル

４．１　名詞

４．１．１　一拍名詞

音韻論的解釈で/○/と表記される「下がり目」のない平板型と/○]/の起伏型の２つのアクセントの型がある。

平板型　音韻論的解釈/○/

（例）　　ナ（名）　　ナ**オ**　**ナ**ス（名を成す）

語例：　柄（え）、蚊、毛、子、血、戸、帆、実、身【第１類】

　　名、葉、日（一日）、日（太陽）、藻【第２類】

起伏型 音韻論的解釈/○]/
（例）　　ナ（菜）　　**ナ**オ　ツム（菜を摘む）
語例：世【第１類】　矢【第２類】　絵、尾、木、酢、田、手、菜、荷、根、野、火、穂、芽、目、湯、夜、輪【第３類】　巣、粉

４．１．２　二拍名詞

/○○/と表記される平板型と、/○○]/の尾高型、/○]○/の頭高型の３つのアクセントの型がある。平板型と尾高型の例で示したように、１拍目と２拍目の間に「下がり目」のない語は、例のように１拍目よりも２拍目の方が高いピッチで発音される。

平板型 音韻論的解釈/○○/
（例）ア**メ**（飴）　　ア**メオ**　**ナメ**ル（飴をなめる）
語例：飴、蟻、烏賊、牛、梅、枝、海老、顔、柿、風、金（かね）、壁、釜、雉、傷、桐、霧、釘、口、首、腰、酒、笹、里、皿、杉、鈴、裾、底、滝、竹、塵、爪、虎、鳥、庭、布、箱、端（はし）、鼻、羽、髭、膝、水、道【第１類】飽き、灰汁（あく）、上、魚（うお）、黄身、小手、これ、沢（尾高型も）、鋤、杉、虹、蔦、韮、人、峰、元、槍
尾高型 音韻論的解釈/○○]/
（例）イ**ワ**（岩）　　イ**ワ**ニ　ノボル（岩に上る）
語例：石、岩、歌、音、紙、川、北、旅、寺、梨、夏、橋、旗、肘、冬、町、胸、村、雪【第２類】足、網、泡、家、池、犬、色、腕、馬、裏、鬼、鍵、髪、瓶、岸、草、櫛、靴、倉、栗、事、竿、坂、塩、炭、月、土、波、縄、糠、蚤、花、骨、山、綿【第３類】顎（あご）、麻、痣、仇（あだ）、明日（あす）、畦（あぜ）、穴、綾、毬（いが）、一、芋、飢え、蛆、腕、垣、熊、弦、昼など
頭高型 音韻論的解釈/○]○/
（例）**ア**メ（雨）　　**ア**メガ　フル（雨が降る）
語例：斧、神、雲【第３類】跡、粟、息、糸、稲、今、臼、海、瓜、奥、帯、笠、糟、数、肩、鎌、絹、錐、屑、空、種、箸、針、松、麦【第４類】秋、汗、雨、鮎、桶、陰、蜘蛛、声、猿、露、鶴、春、鮒、窓、婿、夜【第５類】益、老い、鯉、琴、稚児、香具師（やし）、唾（つば）、友、母、文（ふみ）、美濃、見目、酔い

４．１．３　三拍名詞

平板型と、尾高型、中高型、頭高型の四つの型の対立がある。

平板型 音韻論的解釈　/○○○/
（例）ア**クビ**（欠伸）　　ア**クビオ**　**スル**
語例：筏、田舎、鰯、飾り、霞、形、鰹、着物、鎖、轡（くつわ）、車、煙、仔牛、氷、小山、衣、魚、姑、印、使い、机、隣、膠、寝言、初め、鼻血、庇、額、羊、瞳、南、都、昔、鎧【第１類】間、桜、翼、釣瓶、蜥蜴、扉、百足【第２類】・黄金、小麦、岬（頭高も）・【第３類】鼬、瓦、拳、畑【第４類】・油

（中高も）、簾（すだれ）、襷（尾高も）【第５類】・兎、鰻、狐、雀、背中、鼠、裸、雲雀、誠、操、蚯蚓（みみず）【第６類】・後ろ、鯨、薬、盥【第７類】秋蚕、家路、生き餌、泉、五日、居場所、いわく、鵜飼い、浮名、うろこ、しこ名、大豆、茶釜、円ら、手合い、手負い、手斧、豆腐（尾高型も）、土蔵、土鍋、七日、版木、蹄、三日…

尾高型 音韻論的解釈 /○○○]/

（例） アズキ（小豆） ア**ズキ**オ ニル

語例： 錨【第１類】・小豆、二つ、二人、夕べ【第２類】・力【第３類】頭（あたま）、戦、恨み、扇、男、面、女、鏡、仇（かたき）、刀、暦、宝、袴、鋏、林、東、光、響き、袋、仏、筵【第４類】合間、明日、汗疹、頭、泡（あぶく）、余り、歩み、袷（あわせ）、足蹴、痛み、祈り、鼾、動き、唸り、うねり、恨み、絵描き、落ち目、男、覚え、表、泳ぎ、女、帰り、限り、鉋（かんな）、節句、雑煮、たらこ、俵、鼓、唾（つばき）、紬、剣、とさか、とぐろ、囃子、鞴（ふいご）、もやし…

中高型 音韻論的解釈 /○○]○/

（例） コ**コ**ロ（心） コ**コ**ロガ アル

語例： 五つ、思い、境【第４類】朝日、油、心、柱【第５類】阿呆、覚え（尾高も）、乙女、垣根、掛け値、頭（カシラ）、狂い、栄螺（頭高も）、硯、備え、つつじ、堤、涙（頭高も）、柱（尾高も）、控え（尾高も）、迷い、報い、眼鏡（平板・頭高も）、求め、別れ（尾高も）、山葵（頭高も）

頭高型 音韻論的解釈 /○]○○/

（例） **エ**クボ（靨） **エ**クボガ デキル

語例： 靨、緑【第Ⅱ類】・鮑、栄螺、二十歳、岬（平板も）【第３類】嵐、紅葉、蕨（わらび）【第４類】命、鰈、胡瓜、石榴、姿、涙、錦、枕、眼【第５類】烏、高さ、狸【第６類】・蚕、兜、便り、椿、病【第７類】青葉、梓、在りか、育児、演歌、落ち度、女形、快癒、学位、渦中、鹿の子、眼科、苦難、古式、賜杯、酒乱、巣箱、高み、ちょうちょ、手引き…

４．１．４ 四拍名詞

平板型と、尾高型、語の四拍目の前に「下がり目」のある中二高型、三拍目の前に「下がり目」のある中一高型、そして頭高型の四つの型の対立がある。

平板型 音韻論的解釈 /○○○○/

（例） ア**ジツケ**（味付け） ア**ジツケガ コ**イ（味付けが濃い）

語例： 合鍵、秋茄子、悪名、味付け、後釜、後作、後厄、雨脚、網打ち、網元、飴玉、誤り、荒行、家柄、生き馬、生け捕り、生贄、居心地、一群、一芸、一言、一存、居所、忌み明け、岩陰、伺い、浮雲、受け入れ、受け持ち、後ろ手、薄絹、薄切り、疑い、腕づく、海鳴り、梅干し、裏付け、疫病、炎熱、大味、大入り、大受け、大口、大馬鹿、大幅、大持て、大本、奥書、奥付、奥行、行い、叔父さん、面差し、親元、音曲（オンギョク）、音信、顔出し、顔向け、掛け金、塊…

尾高型 音韻論的解釈 /○○○○]/

（例） ア**シドメ**（足止め） ア**シドメ**オ クー（足止めを食う）

語例：　あくる日、集まり、誤り、一月（いちがつ）、一日（いちにち）、一刻、一冊、一隻、一匹、妹、襟元、弟、書き方、金貸し、金持ち、鎌倉、紙入れ、気の毒、食い物、草臥れ（くたびれ）、九日、断り、酒飲み、塩漬け、塩焼き、正月、尻込み、贅沢、造作、一日（ついたち）、道楽、戸袋、長生き、長持、縫い物、能書き、半年、昼過ぎ、綻び、骨折り、水入れ、水差し、耳鳴り、餅つき、物置、物差し、物知り、欲張り、喜び、六月、我儘、綿入れ…

中二高型 音韻論的解釈　/○○○]○/

（例）　ア**マガ**サ（雨傘）　　ア**マガ**サオ　サス（雨傘を差す）

語例：　雨傘、荒海、打ち水、大雨、大声、柿の木、杉の木、蒸籠（せいろう）、先生、竹箸、玉葱、冬瓜、年ごと、泣き声、箸置き、鼻水、花婿、半ドア、表情、豆粒、油菜、猪、付き合い、連れ合い、頬杖…

中一高型 音韻論的解釈　/○○]○○/

（例）　ア**サ**ガオ（朝顔）　　ア**サ**ガオガ　サ**ク**（朝顔が咲く）

語例：　汗ふき、尼寺、編み物、雨降り、稲刈り、渦巻き、卯の花、襟巻き、折り紙、駆け引き、国々、市役所、凧揚げ、近道、茶道具、綴じ糸、二次会、練り物、春風、人々、紫、持ち味、物事、山鳥、山吹…

頭高型 音韻論的解釈　/○]○○○/

（例）　**カ**ミサマ（神様）　　**カ**ミサマニ　イノル（神様に祈る）

語例：　一切、いんちき、エプロン、オアシス、おちおち、音楽、各国、神様、眼中、館長、艦長、蝙蝠（こうもり）、椎茸、素人、シロップ、相続、大病、蛋白、たんぽぽ、忠孝、ちょうちょう、直後、勅使、討論、どんぐり、年内、氷点…

４．１．５　母音の無声化による「下がり目」の移動

起伏型で発音される語で、「きカラオチル」（木から落ちる）のように母音の無声化が生じる音環境（無声子音の間に狭母音[i]や[ɯ]が挟まれる）のもと発音する場合、き**カ**ラ　オ**チ**ルのようにアクセントの「下がり目」が移動する場合がある。ただし、無声化が起きる全ての場合で「下がり目」が移動するわけではなく、無声化しているにもかかわらず「下がり目」が移動しないケースも多く観察された。どのような場合で「下がり目」の移動が生じるかは今後の課題とする。

（例）**キ**ガ　→　き**カ**ラ　オチル（木から落ちる）

ト**キ**ガ　→ト**きト**　バーイニ　ヨル（時と場合による）

４．１．６　長音・撥音を含む語

２拍目が長音・撥音で、直後に「下がり目」の無い語は、１拍目から高い。ただし、京阪式のアクセントに見られるような高起式のアクセントとは異なり、特に２拍目が撥音の場合は１拍目と２拍目の間にわずかな上昇がある場合もある。

（例）**ノー**（能）　**ノーオ**　**ミ**ル（能を見る）

ネン（念）　**ネンオ**　**オス**（念を押す）

尾高型で発音された語で、２拍目が撥音の語は観察されなかった。「モ**ノ**」（物・者）の２拍目の「ノ」が撥音化した「モン」は頭高型で発音される。

（例）モ**ノ**ガ（者）→ワ**タシワ**　**コーユー**　**モ**ンデス（私はこういう者です）

また、長音の後に「下がり目」がある語例は、「カワ」（川）をややぞんざいに発

音したときの「カー」のような語中の[w]が脱落した語例でのみ観察された。これは本来の「川」の尾高型のアクセントが保たれているものと思われる。

（例）カ**ワ**[kawa]ガ　→　**カー**[ka:]ガ　ナガレル

長音・撥音の前に「下がり目」がある語は他の語のアクセントと同様高低の差がある。

（例）**ゾ**ー（象）　**ゾ**ーガ　イル（像がいる）

語例：A（エー）、紀伊（地名）、地位、十

アン（案）　**ア**ンオ ダス（案を出す）

語例：運、縁、缶、銀、パン、ピン...

４．２　動詞

４．２．１　二拍動詞

平板型と起伏型の型の対立がある。

平板型　（例）イ**ク**（行く）

語例：産む、売る、追う、置く、押す、貸す、聞く、汲む、消す、咲く、敷く、死ぬ、知る、吸う、空く、散る、継ぐ、積む、突く、釣る、飛ぶ、泣く、鳴る、塗る、抜く、乗る、張る、引く、拭く、減る、巻く、増す、揉む、止む、遣る、言う、割る【第１類 A】着る、する、煮る、寝る【第１類 B】

起伏型　（例）　**ア**ウ（会う）

語例：刈る、添う、【第１類 A】

会う、編む、打つ、書く、勝つ、噛む、切る、食う、蹴る、漕ぐ、刺す、住む、剃る、立つ、取る、縫う、脱ぐ、練る、飲む、這う、吐く、吹く、降る、干す、掘る、蒔く、待つ、漏る、読む【第２類 A】来る、出る、見る【第２類 B】

表２：二拍五段動詞の活用形のアクセント

型	語例	終止・連体	未然・意向	連用・音便	仮定・命令
起伏	置く	オ**ク** オ**くソ**ーダ オ**クラシ**ー オ**くトキ**ガ オ**くコト**ガ オ**クノ**ガ オ**くホ**ーガ オ**クベ**ーカ	オ**カナイ** オ**カナ**カッタ オ**カセル** オ**カレル** オ**コ**ー	オき**タイ** オ**キマ**ス オ**キ**ニユク オき**ソーダ** オ**イタ** オ**イテ**	オ**ケ**バ オ**ケ**

平板	書く	**カ**く **カ**くソーダ カ**クラシ**ー **カ**くトキガ **カ**くコトガ **カ**クノガ **カ**くホーガ カ**クベ**ーカ	カ**カ**ナイ カ**カ**ナカッタ カ**カセ**ル カ**カレ**ル カ**コ**ー	カき**タ**イ カ**キマ**ス **カ**キニユク カき**ソ**ーダ **カ**イタ **カ**イテ	**カ**ケバ **カ**ケ

４．２．２　三拍動詞

平板型と起伏型（中高型・頭高型）の型の対立がある。

平板型　（例）　ア**ソブ**（遊ぶ）

語例：　上がる、当たる、浮かぶ、歌う、送る、飾る、変わる、嫌う、削る、探す、探る、沈む、慕う、進む、並ぶ、握る、運ぶ、巡る、ゆずる【第１類 A】・明ける、植える、借りる、枯れる、消える、捨てる、染める、腫れる、負ける、燃える、与える、重ねる、並べる、始める【第１類 B】運ぶ、違う【第２類 A】叱る、噎せる

中高型　（例）　ア**ル**ク（歩く）

語例：　余る、祈る、祝う、動く、移る、恨む、起こす、落とす、思う、乾く、崩す、砕く、曇る、縛る、叩く、頼む、作る、包む、詰まる、照らす、懐く、悩む、習う、憎む、濁る、ひがむ、光る、許す、隠す【第２類 A】生きる、起きる、落ちる、掛ける、覚める、建てる、付ける、溶ける、撫でる、逃げる、晴れる【第２類 B】怒る、襲う、竦（すく）む、辿る、噤（つぐ）む、名指す、

頭高型　（例）　**カ**エル（帰る）入る【第２類 A】通る

表３：三拍五段動詞の活用形のアクセント

型	語例	終止・連体	未然・意向	連用・音便	仮定・命令
平板	遊ぶ	ア**ソブ** ア**ソブソ**ーダ ア**ソブラシ**ー ア**ソブトキ**ガ ア**ソブコト**ガ ア**ソブノ**ガ ア**ソブホ**ーガ ア**ソブベ**ーカ	ア**ソバナイ** ア**ソバナ**カッタ ア**ソバセル** ア**ソバレル** ア**ソボ**ー	ア**ソビタイ** ア**ソビマ**ス ア**ソビ**ニユク ア**ソビソ**ーダ ア**ソンダ** ア**ソンデ**	ア**ソベ**バ ア**ソベ**

中高	動く	ウ**ゴ**ク ウ**ゴ**くソーダ ウ**ゴクラシ**ー ウ**ゴ**くトキガ ウ**ゴ**くコトガ ウ**ゴ**クノガ ウ**ゴ**くホーガ ウ**ゴクベ**ーカ	ウ**ゴカ**ナイ ウ**ゴカ**ナカッタ ウ**ゴカセ**ル ウ**ゴカレ**ル ウ**ゴコ**ー	ウ**ゴきタ**イ ウ**ゴキマ**ス ウ**ゴ**キニユク ウ**ゴきソ**ーダ ウ**ゴ**イタ ウ**ゴ**イテ	ウ**ゴ**ケバ ウ**ゴ**ケ
頭高	帰る	**カ**エル **カ**エルソーダ カ**エルラシ**ー **カ**エルトキガ **カ**エルコトガ **カ**エルノガ **カ**エルホーガ カ**エルベ**ーカ	カ**エラ**ナイ （**カ**エンナイ） カ**エラ**ナカッタ （**カ**エンナカッタ） カ**エラセ**ル カ**エラレ**ル カ**エロ**ー	カ**エリタ**イ カ**エリマ**ス **カ**エリニーク カ**エリソ**ーダ **カ**エッタ **カ**エッテ	**カ**エレバ **カ**エレ

４．２．３　四拍動詞

平板型と起伏型（中高型）の対立がある。特に若年層で起伏型への統合が進んでいるが老年層では対立が保たれている語が多い。

平板型　（例）　シ**タガウ**（従う）
語例：　窺う、疑う、従う、養う【第１類 A】・与える、重ねる、並べる、始める【第１類 B】、編み出す、打ち抜く、掲げる、切り込む、動じる、取り持つ、封ずる、めり込む
中高型　（例）　オ**ドロ**ク（驚く）
語例：　余る、嘲る、悲しむ【第１類 A】・表す、驚く、喜ぶ【第２類 A】・集める、数える、調べる、助ける、流れる、離れる、隠れる【第２類 B】・うつむく、潰える、うっちゃる

表４：四拍五段動詞の活用形のアクセント

型	語例	終止・連体	未然・意向	連用・音便	仮定・命令
平板	従う	し**タガウ** し**タガウソ**ーダ し**タガウラシ**ー し**タガウトキ**ガ し**タガウコト**ガ し**タガウノ**ガ し**タガウホ**ーガ し**タガウベ**ーカ	し**タガワナイ** し**タガワナ**カッタ し**タガワセル** し**タガワレル** し**タガオ**ー	し**タガイタイ** し**タガイマ**ス し**タガ**イニユク し**タガイソ**ーダ し**タガッタ** し**タガッテ**	し**タガ**エバ し**タガエ**
中高	表す	ア**ラワ**ス ア**ラワ**すソーダ ア**ラワスラシ**ー ア**ラワ**すトキガ ア**ラワ**すコトガ ア**ラワ**スノガ ア**ラワ**スホーガ ア**ラワスベ**ーカ	ア**ラワサ**ナイ ア**ラワサ**ナカッタ ア**ラワサセ**ル ア**ラワサレ**ル ア**ラワソ**ー	ア**ラワしタ**イ ア**ラワシマ**ス ア**ラワ**シニユク ア**ラワしソ**ーダ ア**ラワ**しタ ア**ラワ**しテ	ア**ラワ**セバ ア**ラワ**セ

４．３形容詞

４．３．１　二拍形容詞

2拍の形容詞のアクセントは全て頭高型である。

（例）**コ**イ（濃い）

語例：無い、良い（よい・いい）、濃い、酸い

表５：２拍形容詞の活用形のアクセント

型	語例	終止・連体	未然	連用	仮定
起伏	良い	**ヨ**イ（**イ**ーとも） **ヨ**イソーダ **ヨ**イヨーダ **ヨ**イラシー **ヨ**イトキガ **ヨ**イコトガ **ヨ**イノガ **ヨ**イホーガ	ヨ**カロ**ー	**ヨ**カッタ **ヨ**クナル **ヨ**クナイ **ヨ**くテ ヨ**サソ**ーダ	**ヨ**ケレバ

４．３．２　三拍形容詞

3拍の語には平板型と起伏型の対立がある（後述）。

５．古相の保持

今回行った調査により、小田原市方言の老年層話者のアクセントにいくつかの特徴を観察することができた。そして、それらの特徴は、東京方言のアクセントに関する先行研究で言われている伝統的なアクセントの特徴と重なる部分が多くあった。そこで、以降に東京方言アクセントの古相と考えられる特徴を述べる。

５．１　三拍名詞の中高型のアクセント

秋永一枝（1981）に「古くは所属語彙も少なくなかったが、多く頭高型（青葉・朝日・黄粉…）に転向し、（後略）」とある。老年層話者を対象とした調査では、以下の語で中高型のアクセントが観察できた。

語例：　　ア**サ**ヒ（朝日）、ア**ブ**ラ（油）、オ**ボ**エ（覚え）、カ**キ**ネ（垣根）、カ**ケ**ネ（掛け値）、カ**シ**ラ（頭）、ク**ル**イ（狂い）、コ**コ**ロ（心）、サ**ザ**エ（栄螺）、ス**ズ**リ（硯）、ソ**ナ**エ（備え）、つ**ツ**ジ（躑躅）、つ**ツ**ミ（堤）、ナ**ミ**ダ（涙）、ハ**シ**ラ（柱）、ひ**カ**エ（控え）、マ**ヨ**イ（迷い）、ム**ク**イ（報い）、メ**ガ**ネ（眼鏡）、モ**ト**メ（求め）、ワ**カ**レ（別れ）、ワ**サ**ビ（山葵）

５．２　多拍語の頭高型のアクセント

東京方言アクセントの古相の例の一つである、五拍以上の語にみられる頭高型のアクセントは、数は少なかったものの、以下の語で観察された。

カマイタチ（鎌鼬）、**ノ**ビチジミ（伸び縮み）、**ヒ**ージーサン（ひい爺さん）、**ヒ**ーバーサン（ひい婆さん）、**ヒ**ロコージ（広小路：地名）、**マ**ツノウチ（松の内）

５．３　動詞の同音異義語のアクセント

同音異義語「拭く」・「吹く」や「突く」・「着く」は、現代の東京方言では活用形のアクセントで同じように発音される場合がある。小田原方言の話者では一部で揺れがみられたものの、おおむね対立が保たれており、伝統的なアクセントを保持しているといえる。

表６：「拭く」・「吹く」の活用形のアクセント

語例	終止・連体	未然	連用	仮定・命令
拭く	ふ**ク** ふ**クソ**ーダ ふ**クラシ**ー ふ**クト**キガ ふ**クコト**ガ ふ**クノ**ガ ふ**クホ**ーガ ふ**クベ**ーカ	ふ**カナイ** ふ**カナ**カッタ ふ**カセル** ふ**カレル** ふ**コ**ー	ふ**きタイ** ふ**キマ**ス ふ**キニユク** ふ**きソーダ** フ**イタ** フ**イテ**	ふ**ケ**バ ふ**ケ**

吹く	ふ**ク** ふ**ク**ソーダ ふ**クラシ**ー ふ**ク**トキガ ふ**ク**コトガ ふ**ク**ノガ ふ**ク**ホーガ ふ**クベ**ーカ	ふ**カ**ナイ ふ**カ**ナカッタ ふ**カセ**ル ふ**カレ**ル ふ**コ**ー	ふ**きタ**イ ふ**キマ**ス ふ**キ**ニユク ふ**きソ**ーダ **フ**イタ **フ**イテ	ふ**ケ**バ ふ**ケ**

５．４　形容詞の２つの型の保持

形容詞のアクセントは、東京方言では起伏型への統合が進んでいる。小田原市方言の老年層話者を観察したところ、３拍の形容詞については形容詞単独の発音だけでなく、活用形のアクセントでも平板型と起伏型の対立が観察された。なお、起伏型の形容詞の連用形と仮定形のアクセントは、もっとも伝統的な頭高型と比較的新しい中高型とで揺れが観察された。

平板型/○○○/　　赤い、浅い、厚い、甘い、荒い、薄い、遅い、重い、固い、軽い、暗い、遠い

起伏型/○○]○/　　熱い、多い、黒い、白い、高い、近い、強い、長い、早い、低い、深い、古い、弱い

表７：３拍形容詞の活用形のアクセント

型	語例	終止・連体	未然	連用	仮定
平板	赤い	ア**カイ** ア**カイソ**ーダ ア**カイラシ**ー ア**カイトキ**ガ ア**カイコト**ガ ア**カイノ**ガ ア**カイホ**ーガ	ア**カカロ**ー	ア**カ**カッタ ア**カクナ**ル ア**カクナ**イ ア**カ**くテ ア**カソ**ーダ	ア**カ**ケレバ
起伏	黒い	ク**ロ**イ ク**ロ**イソーダ ク**ロイラシ**ー ク**ロ**イトキ ク**ロ**イコト ク**ロ**イノガ ク**ロ**イホーガ	ク**ロカロ**ー	ク**ロ**カッタ （**ク**ロカッタ） **ク**ロクナル ク**ロ**クナイ （**ク**ロクナイ） ク**ロ**くテ （**ク**ロくテ） ク**ロソ**ーダ	**ク**ロケレバ

６．まとめ

本稿では神奈川県小田原市方言の老年層のアクセントの体系を記述し、調査結果

のうち、東京方言アクセントの古相と思われるいくつかの特徴を述べた。

冒頭でも述べたとおり、神奈川県内の方言はこれまであまり調査がされてこなかった地域であり、その方言を記述すること自体が意義を持つ。小田原市方言のアクセントの体系は、東京方言アクセントと同様、ｎ拍に対しｎ＋１種のアクセントの型の対立があった。古相を保っている例として名詞・動詞・形容詞の別にいくつかの事象を報告した。その中では、明らかに東京方言のアクセントの古相を残しているように思われる例もあったが、古相を一部で保ちつつもすでに変化が生じているものもあった。今後の変化を観察していくためにも、伝統的な方言の記述を急ぎたい。

参考文献

飯豊毅一ほか　(1984)『関東地方の方言　講座方言学５』国書刊行会.

秋永一枝編（1981)『明解日本語アクセント辞典　第２版』三省堂.

NHK 放送文化研究所編（1998)『NHK 日本語発音アクセント辞典』NHK 出版.

佐藤亮一（1996)「『東京語アクセント資料』の検証 - 下町多人数調査結果と比較して - 」『言語学林 1995 - 1996』三省堂，135-149.

日本放送協会編（1951)『日本語アクセント辞典』日本放送出版協会.

日野資純（1961)「神奈川県の方言」『神奈川県の歴史』神奈川県立図書館シリーズ６，131-154.

平山輝男（1940)『全日本アクセントの諸相』育英書院.

平山輝男（1957)『日本語音調の研究』明治書院.

平山輝男（1960)『全国アクセント辞典』東京堂出版.

馬瀬良雄・佐藤亮一（1989)「東京語アクセントの多様性」『講座日本語と日本語教育』2，206-232.

山田美妙（1893)『日本大辞書』(複製版）名著普及会.